



特定非営利活動法人 発行 くまがや小麦の会 発行責任者 日向美津江

NPO 法人 くまがや小麦の会 since 2006 事務局 〒360-0801 埼玉県熊谷市中奈良1797-1 TEL. 048-521-7801

Interview シリーズ No. 13

富岡製糸場には、埼玉県近隣をはじめ全国各地から名家出身の女性達が集まり、様々な仕事を担った。製糸場の労働環境についても良好で、過酷な労働が問題視されていた他の状況とは異にしていた。根岸家、根岸武香の

世界文化遺産に登録された「富岡製糸場と絹産業遺産群」。製糸場が開設された当時、幕末から明治時代へと至る熊谷で激動の時代を迎えていた。その中で、根岸友山・武香は特筆すべき存在だ。その時代に思いを巡らしながら、現当主の根岸友憲さんにお話を聞いた。



昭和17年11月28日 埼玉県旧大里町青山生まれ。昭和39年に大学を卒業後、大手企業に勤務。平成2年に退社し、その後、不動産管理会社役員、社長を歴任。生家である根岸家の根岸友山・武香の歴史を顕彰。熊谷市文化財保護審議会委員を務めている。

根岸友山は、尊王攘夷派の志士として浪士組に参画。屋敷内には私塾「三餘堂」と道場「振武所」を開設し、青年の教育に務めた。友山の二男、武香は、埼玉県議会第二代議長や貴族院議員を歴任。考古学や歴史学に造詣が深く、地域の文化振興を進めた。



富岡製糸場から熊谷へ、丸登製糸株式会社取締役社長 片倉正彦さん 富岡製糸場「熊谷工場」。片倉最後の製糸工場。片倉家の先祖と同郷である片倉正彦さんは、片倉家と同じ製糸業を経営していた。片倉さんは「富岡から熊谷へ。そのシルクロードは時代を超えて今も繋がっている」という。信州から全国へ。片倉が多岐のことに愛されながら製糸業を担った。その終幕が熊谷の地で閉じられたことは感慨深い。「養蚕の大生産地である熊谷。地域の絹文化が最後まで明かりを灯しつづけたのではないかと推察している。片倉さんは今後とも製糸の未来を見据えながら、製糸の歴史を発信したい」と語っている。(Y)

「いい風の吹くところ」 ◆昨年十一月カッポよきの代名詞だった高倉健さんが八十三歳であちらの世界に逝かれた。健さんと世界に逝かれた後、健さんと暮らしていたら、どうなるか。健さんの奥さんに聞いてみた。健さん、奥さん、健さんと暮らしていたら、どうなるか。健さん、奥さん、健さんと暮らしていたら、どうなるか。

富岡から熊谷をつなぐシルクロードと根岸家の関係。それは吉田松陰の妹「文」を主人公に幕末から明治に生きた人々の姿を描いたNHK大河ドラマ「花燃ゆ」にも垣間見える。「文」の夫であり、かつて存在した熊谷県の県令(現在の知事)を務めた権取素彦(かとり・もとひこ)は、長州藩時代から根岸家と親交が深く、度々来訪した。権取は群馬県令就任後も、富岡製糸場の稼働に力を注ぎ、晩年も根岸家に想いを寄せている。友憲さんは「近代熊谷には多くの著名人が登場する。熊谷シルクの歴史もその一つ。後世に伝えていきたい」と語っている。(Y)

熊谷工場勤務し、退職後は片倉シルク記念館の監修者・解説員として、製糸の歴史を今に伝える塩澤英夫さんと垣塚はつえさんにお話を伺った。塩澤さんは片倉の歴史から語った。明治から大正に掛けて、長野の諏訪で創設した初代片倉兼太郎から始まり、日本全国で製糸業を展開させた

片倉。世界の製糸工場としても大きな役割を担っていたとして、「その中でも石原製糸場(熊谷工場)は開業当時から、先進技術を取り入れた有力工場だった」と説明する。熊谷の歴史と製糸。この熊谷シルクの中心にあった片倉。それは産業だけでなく、人間同士のつながりを大切にするところであったことを塩澤さんは明らかにす。片倉には片倉学園という学園があり、工場勤務をする若者の教育にも熱心だった。日々の親睦も深く全員が家族のような工場だった。

◆NPO法人くまがや小麦の会として熊谷産小麦の普及を主軸にした町おこし活動が続けて8年になってきた。当初では想像もしなかったことまで多くの方々の出会いを促した。そして今、NPO法人の方々と出会う。特に自治体方々との関係を進める事はNPO法人が自治体の信頼にたるべき体制を構築する事だと思ふ。お互いの活動を詳細に知ることに、協働体制は強化される。

富岡製糸場と絹産業遺産群1 ふるさと再発見



「人々の家訓にも示されている。これは片倉の家族ぐるみのような意識だ。まさに家族ぐるみのような意識で日々の生産が行われた。熊谷工場に長年勤務した垣塚はつえさんは「仕事し、学び、共に楽しむ。そんな青春を謳歌できる工場だった」と話す。現在は、片倉シルク記念館の管理員を担う垣塚さん。熊谷工場の閉鎖後も、記念館として再出発させたこと、これも片倉らしい粋な計らい」と微笑む。

「いい風の吹くところ」 ◆NPO法人くまがや小麦の会として熊谷産小麦の普及を主軸にした町おこし活動が続けて8年になってきた。当初では想像もしなかったことまで多くの方々の出会いを促した。そして今、NPO法人の方々と出会う。特に自治体方々との関係を進める事はNPO法人が自治体の信頼にたるべき体制を構築する事だと思ふ。お互いの活動を詳細に知ることに、協働体制は強化される。

小麦の会 活動報告

10/26(日) 第8回こなん祭り 熊谷市江南文化会館ビア駐車場 10/26(日) 奈良フェスタ 熊谷市立奈良小学校

11/15(土)11/16(日) 第10回熊谷市産業祭 2日間共晴天に恵まれ大勢の人出があり、にぎやかな催でした。昨年とはテントの場所が変わりましたが、毎年の出店て知名度も上って目当ての品を買求めてくれました。

11/29(土) 熊谷商業高校販売実習 熊谷駅コンコース

12/17(水) 熊谷商工会議所女性会「地粉ビザ教室」平松研究所

12/21(日) ベアリス30km in立正大学熊谷キャンパス

1/1(木) 久保島大神社のお供物に くまサブレ

1/9(金) わーくほーむ成人式

1/30(金) 男女共同参画講演「女性の行き方」

小川明子&森田義史 ジョイントコンサート 音楽のおくりもの

原田勇雅 バリトンリサイタル ヴェルディのいるイタリア

2015年 4月19日(日) 熊谷市文化センター 開場 13:30 開演 14:00 料金 一般 3,000円 学生 1,500円

あの町この店



「由来」 屋号の「三河屋」は、今は亡き祖父の正平さんが親の勤めて和菓子子の修業をし、昭和二十六年現在地に和菓子製造販売のお店を構える時、祖母から祖先が江戸本郷かい坂で「三河屋」という屋号で小間物問屋を営んでいたとの話を聞きその屋号から名付けたそう。

「新たな出発」 昨年十月新店舗の完成を機に、従来からのお菓子販売に加え音楽を聴きながらお菓子の食べられるカフェを併設しました。このカフェのテーマは、お菓子の手になるもの。手作りのお菓子の手になるもの。手作りのお菓子の手になるもの。



イベント出店予定

- 3月 8日(日) 第4回 熊谷チャリティーウォーク (参加賞やおおざねサブレ) 3月22日(日) 第25回 熊谷くらマラソン大会 熊谷くら運動公園陸上競技場 3月30日(月) 第16回 全国高等学校ラグビーフットボール選手権大会 4月7日(火) 熊谷スポーツ文化公園ラグビー場 4月 4月25日(土) 第9回 友山まつり 根岸家長屋門 5月 5月初旬 第4回 かがはら元氣まつり 籠原駅南口 5月23日(土) NPO法人くまがや小麦の会第9回定期総会 苜蓿 5月31日(日) 第5回 熊谷B級グルメ大会 熊谷スポーツ文化公園 6月 6月初旬 NPO法人くまがや小麦の会春のバスツアー 6月13日(土) 第7回 こなんホール祭り 江南総合文化会館ビア駐車場

■ 会員募集 賛助会員年会費 10,000円 一般会員年会費 一口1,000円 お申込み: TEL 048-521-7801 FAX 048-521-7900

次号のお届けは2015年6月の予定です。 編集室 TEL 048-521-7801 FAX 048-521-7900